

日興ブラックロック・ハイ・クオリティ・アロケーション・ファンド (為替ヘッジなし)

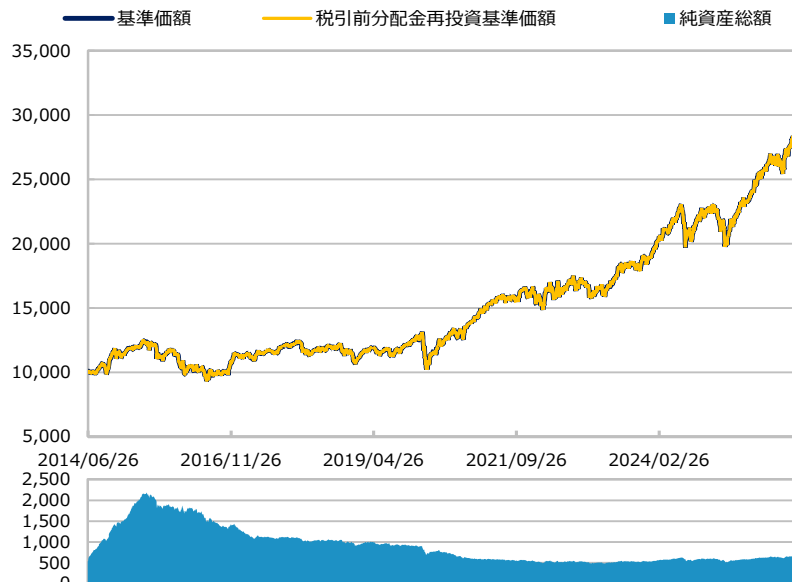
追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2026年06月30日

ファンド設定日：2014年06月27日

日経新聞掲載名：ハイクオ無

基準価額・純資産総額の推移 (円・億円)



- グラフは過去の実績を示したものであり将来の成果をお約束するものではありません。
- 基準価額は信託報酬控除後です。信託報酬は後述の「ファンドの費用」をご覧ください。

基準価額・純資産総額

	当月末	前月比
基準価額 (円)	28,487	+442
純資産総額 (百万円)	66,425	+616

■ 基準価額は10,000口当たりの金額です。

騰落率 (税引前分配金再投資) (%)

	基準日	ファンド
1 ヵ月	2026/05/29	1.6
3 ヵ月	2026/03/31	12.1
6 ヵ月	2025/12/30	8.7
1 年	2025/06/30	26.1
3 年	2023/06/30	55.4
設定来	2014/06/27	184.9

- ファンドの騰落率は税引前分配金を再投資した場合の数値です。
- ファンド購入時には購入時手数料、換金時には税金等の費用がかかる場合があります。
- 騰落率は実際の投資家利回りとは異なります。

最近の分配実績 (税引前) (円)

期	決算日	分配金
第8期	2022/06/27	0
第9期	2023/06/26	0
第10期	2024/06/26	0
第11期	2025/06/26	0
第12期	2026/06/26	0
設定来累計		0

※ 分配金は10,000口当たりの金額です。過去の実績を示したものであり、将来の分配をお約束するものではありません。

資産構成比率 (%)

	当月末	前月比
組入投資信託	95.7	-0.3
マネー・ファンド	0.0	-0.0
現金等	4.3	+0.3
合計	100.0	0.0

※ 組入投資信託の正式名称は「ブラックロック・グローバル・ファンズ・グローバル・アロケーション・ファンド (クラスX2)」です。

※ マネー・ファンドの正式名称は「マネー・マーケット・マザーファンド」です。

運用概況

当月末の基準価額は、28,487円（前月比+442円）となりました。

また、税引前分配金を再投資した場合の月間騰落率は、+1.6%となりました。

※ この資料の各グラフ・表に記載されている数値は、表示桁未満がある場合は四捨五入して表示しています。

※ この資料に記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全てファンドの純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

日興ブラックロック・ハイ・クオリティ・アロケーション・ファンド (限定為替ヘッジ)

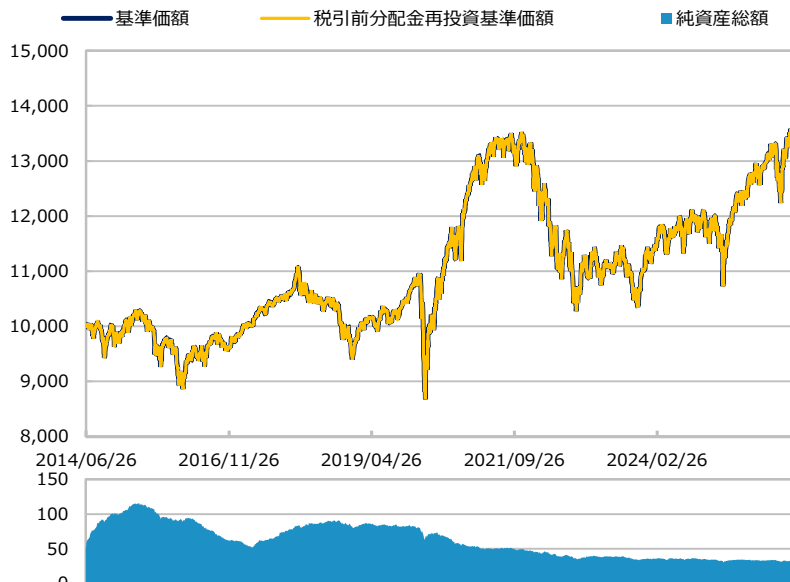
追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2026年06月30日

ファンド設定日：2014年06月27日

日経新聞掲載名：ハイクオ限有

基準価額・純資産総額の推移（円・億円）



- グラフは過去の実績を示したものであり将来の成果をお約束するものではありません。
- 基準価額は信託報酬控除後です。信託報酬は後述の「ファンドの費用」をご覧ください。

基準価額・純資産総額

	当月末	前月比
基準価額（円）	13,398	-83
純資産総額（百万円）	3,187	-70

■ 基準価額は10,000口当たりの金額です。

騰落率（税引前分配金再投資）（％）

	基準日	ファンド
1 ヵ月	2026/05/29	-0.6
3 ヵ月	2026/03/31	9.5
6 ヵ月	2025/12/30	3.1
1 年	2025/06/30	8.7
3 年	2023/06/30	19.8
設定来	2014/06/27	34.0

- ファンドの騰落率は税引前分配金を再投資した場合の数値です。
- ファンド購入時には購入時手数料、換金時には税金等の費用がかかる場合があります。
- 騰落率は実際の投資家利回りとは異なります。

最近の分配実績（税引前）（円）

期	決算日	分配金
第8期	2022/06/27	0
第9期	2023/06/26	0
第10期	2024/06/26	0
第11期	2025/06/26	0
第12期	2026/06/26	0
設定来累計		0

※ 分配金は10,000口当たりの金額です。過去の実績を示したものであり、将来の分配をお約束するものではありません。

資産構成比率（％）

	当月末	前月比
組入投資信託	96.8	-1.4
マネー・ファンド	0.0	+0.0
現金等	3.1	+1.4
合計	100.0	0.0

為替ヘッジ比率 99.4 -0.7

- ※ 組入投資信託の正式名称は「ブラックロック・グローバル・ファンズ・グローバル・アロケーション・ファンド（クラスX2）」です。
- ※ マネー・ファンドの正式名称は「マネー・マーケット・マザー・ファンド」です。
- ※ 為替ヘッジ比率は為替予約の邦貨換算を外貨建資産の邦貨換算額で除して算出しています。

運用概況

当月末の基準価額は、13,398円（前月比-83円）となりました。

また、税引前分配金を再投資した場合の月間騰落率は、-0.6%となりました。

なお、当月末の為替ヘッジ比率は99.4%となりました。



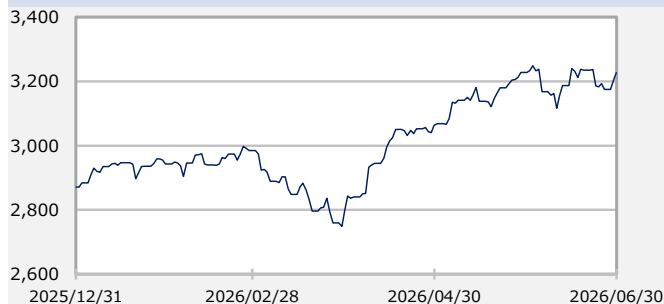
日興ブラックロック・ハイ・クオリティ・アロケーション・ファンド (為替ヘッジなし) / (限定為替ヘッジ)

追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2026年06月30日

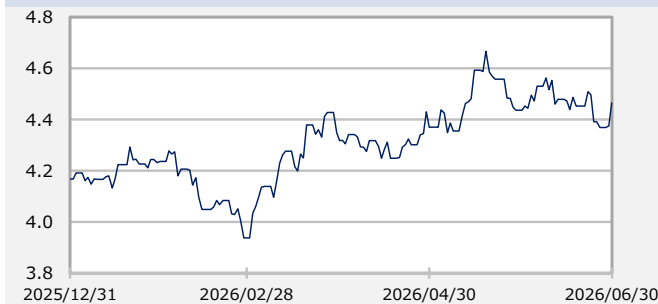
市場動向

MSCIオール・カントリー・ワールド・インデックス



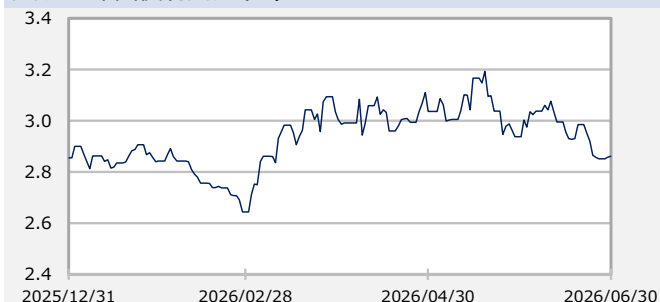
当月騰落率：-0.0%

アメリカ10年国債利回り (%)



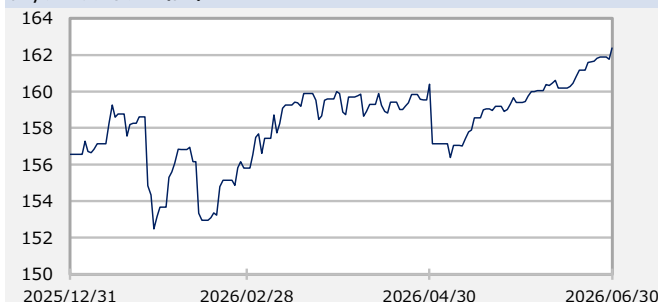
当月末：4.47% 前月末：4.44% 変化幅：0.03%

ドイツ10年国債利回り (%)



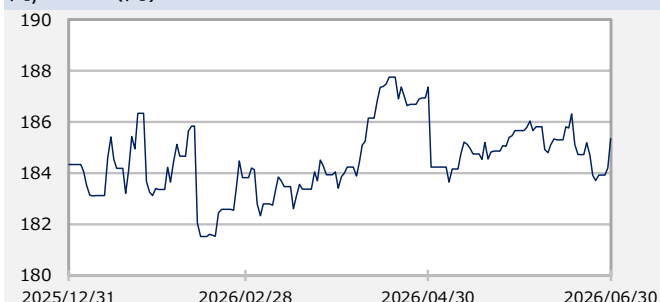
当月末：2.86% 前月末：2.94% 変化幅：-0.08%

円/アメリカドル (円)



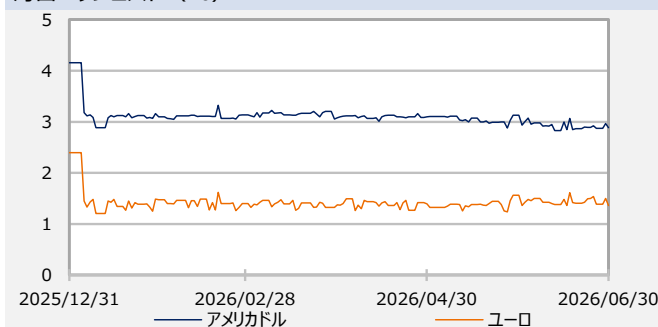
当月末：162.4 前月末：159.4 騰落率：1.9%

円/ユーロ (円)



当月末：185.4 前月末：185.7 騰落率：-0.2%

為替ヘッジコスト (%)



アメリカドル 当月末：2.88% 前月末：3.13% 変化幅：-0.25%

ユーロ 当月末：1.36% 前月末：1.56% 変化幅：-0.20%

※ Bloomberg等のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成。インデックス等は注記がある場合を除き、原則として現地通貨ベースで表示しています。
 ※ 為替レートは一般社団法人資産運用業協会が発表する仲値（TTM）、ヘッジコストは該通貨の対円のスポットレートと1ヵ月物フォワードレートで算出し年率換算した値です。
 ※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



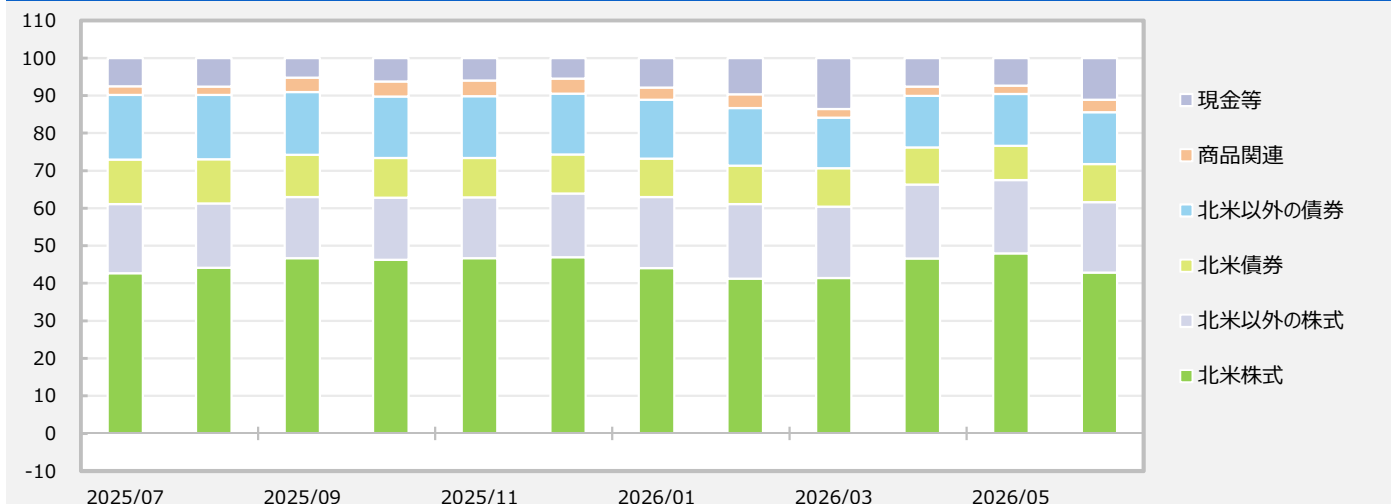
日興ブラックロック・ハイ・クオリティ・アロケーション・ファンド (為替ヘッジなし) / (限定為替ヘッジ)

追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2026年06月30日

※ このページは組入投資信託をシェアクラスとして含む「ブラックロック・グローバル・ファンズーグローバル・アロケーション・ファンド」について、ブラックロック・ジャパン株式会社から提供を受けたデータおよび情報を基に記載しています。

資産配分の推移（過去12カ月）（％）



資産構成比率（％）

	当月末	前月比
株式等	61.7	-5.9
債券	23.9	+1.0
商品関連	3.3	+1.2
現金等	11.1	+3.8
合計	100.0	0.0

地域構成比率（％）

	当月末	前月比
北米	53.0	-4.2
欧州	18.3	-0.5
日本	3.7	+0.2
アジア・パシフィック	1.3	-0.1
その他	12.5	+0.8

通貨構成比率（％）

	当月末	前月比
アメリカドル	60.3	+0.0
ユーロ	11.9	+0.6
日本円	7.7	+0.2
イギリス ポンド	3.4	+0.0
その他	16.8	-0.9

※ このページに記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全て「ブラックロック・グローバル・ファンズーグローバル・アロケーション・ファンド」の純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

日興ブラックロック・ハイ・クオリティ・アロケーション・ファンド (為替ヘッジなし) / (限定為替ヘッジ)

追加型投信／内外／資産複合

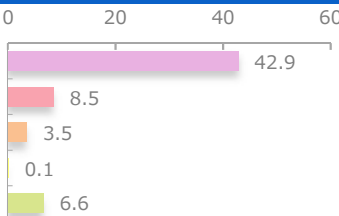
作成基準日：2026年06月30日

※ このページは組入投資信託をシェアクラスとして含む「ブラックロック・グローバル・ファンズーグローバル・アロケーション・ファンド」について、ブラックロック・ジャパン株式会社から提供を受けたデータおよび情報を基に記載しています。

株式等のポートフォリオ内容

国・地域構成比率 (%)

	当月末	前月比
北米	42.9	-5.1
欧州	8.5	-0.4
日本	3.5	+0.2
アジア・パシフィック	0.1	-0.1
その他	6.6	-0.4



業種構成比率 (%)

	当月末	前月比
情報技術	17.7	-3.3
資本財・サービス	9.7	+0.4
金融	9.4	+0.1
ヘルスケア	6.0	-0.1
その他	18.8	-2.9

※ 業種はGICS（世界産業分類基準）による分類です。

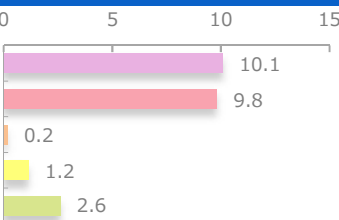
組入上位10銘柄 (%)

銘柄	国・地域	業種	比率
1 NVIDIA CORP	アメリカ	情報技術	2.5
2 ALPHABET INC CLASS C	アメリカ	コミュニケーション・サービス	2.4
3 APPLE INC	アメリカ	情報技術	2.4
4 TAIWAN SEMICONDUCTOR MANUFACTURING	台湾	情報技術	1.5
5 AMAZON.COM INC	アメリカ	一般消費財・サービス	1.5
6 MICRON TECHNOLOGY INC	アメリカ	情報技術	1.3
7 ELI LILLY	アメリカ	ヘルスケア	1.3
8 MICROSOFT CORP	アメリカ	情報技術	1.2
9 BROADCOM INC	アメリカ	情報技術	1.2
10 ASML HOLDING NV	オランダ	情報技術	1.1

債券のポートフォリオ内容

国・地域構成比率 (%)

	当月末	前月比
北米	10.1	+1.0
欧州	9.8	-0.1
日本	0.2	+0.0
アジア・パシフィック	1.2	-0.0
その他	2.6	+0.1



種別構成比率 (%)

	当月末	前月比
国債・政府機関債等	11.3	-0.0
転換社債	0.4	+0.1
社債	7.5	-0.1
その他	4.8	+1.0

※ このページに記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全て「ブラックロック・グローバル・ファンズーグローバル・アロケーション・ファンド」の純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

日興ブラックロック・ハイ・クオリティ・アロケーション・ファンド (為替ヘッジなし) / (限定為替ヘッジ)

追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2026年06月30日

※ このページは組入投資信託をシェアクラスとして含む「ブラックロック・グローバル・ファンズ・グローバル・アロケーション・ファンド」について、ブラックロック・ジャパン株式会社から提供を受けたデータおよび情報を基に記載しています。

ファンドマネージャーコメント

<市場動向>

(株式) 6月の米国株式市場は小幅に下落しました。米国とイランの停戦を受けて好材料の出尽くし感が広がるなか、上旬は雇用統計が強い内容となり、利上げへの警戒感から下落しました。また、複数の大型IPO（新規株式公開）の観測も需給面での調整圧力となりました。その後、原油価格の下落や、スペースX社の上場完了で反発する局面もありました。しかし、中旬のFOMC（米連邦公開市場委員会）で政策金利は据え置かれたもののタカ派（インフレ抑制を重視する立場）的な姿勢が示唆されたことに加え、テクノロジー関連銘柄の利益確定の売り圧力もあり、上値の重い展開となりました。欧州株式市場は上昇しました。中東情勢の落ち着きによる世界的な景気持ち直し期待やエネルギー価格の下落が支援材料となりました。ECB（欧州中央銀行）の利上げ実施による影響は限定的でした。

(債券) 米国の長期金利（10年国債利回り）は小幅に上昇しました。上旬は、雇用統計が市場予想を上回ったことなどを背景に、金利が上昇しました。中旬以降は米国とイランが戦闘終結の合意に至るなか、原油価格の下落とともに金利が低下しましたが、月末に労働市場の底堅さを示す指標を受けて上昇しました。FOMCでは市場予想通り政策金利の据え置きが決定されました。ユーロ圏の長期金利（ドイツ10年国債利回り）は低下しました。上旬は、先行きの利上げ観測が高まるなか金利は上昇したものの、中旬以降は米国とイランが戦闘終結の合意に至るなか、原油価格の下落とともに金利が低下しました。ECB理事会では市場予想通り政策金利の0.25%引き上げが決定されました。

(為替) 米ドル/円は上昇しました。米雇用指標の上振れやFOMCがタカ派的な内容と受け止められたことから、米ドル買い・円売りが優勢となりました。下旬は、日銀の追加利上げ観測の後退などから一段と円安が進みました。ユーロ/円は前月末と比較して概ね横ばいとなりました。中旬にかけて日銀総裁のタカ派的な発言や日本政府・日銀による為替介入への警戒からユーロ安・円高となりました。月末にかけては、日銀の追加利上げ観測が後退したことを受けて円安となりました。

<運用経過>

株式の組入比率は前月比で引き下げ、参考指標に対するオーバーウェイト幅を縮小しました。企業業績を背景とした株価上昇は、一部の大型銘柄に集中する局面から、より幅広い銘柄やセクターへ広がりつつあるとみています。このような環境を踏まえ、集中度が高まっていた一部ポジションを縮小し、リスクを抑制するとともに、より選別的な投資姿勢へ移行しました。一方で、持続的なキャッシュフロー成長や構造的な利益成長が期待できる分野については、引き続き選好しています。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

日興ブラックロック・ハイ・クオリティ・アロケーション・ファンド (為替ヘッジなし) / (限定為替ヘッジ)

追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2026年06月30日

※ このページは組入投資信託をシェアクラスとして含む「ブラックロック・グローバル・ファンズ・グローバル・アロケーション・ファンド」について、ブラックロック・ジャパン株式会社から提供を受けたデータおよび情報を基に記載しています。

ファンドマネージャーコメント

セクター別では、資本財セクターの組入比率を最も引き上げました。電力、送電網、電力インフラなど、AIの普及を支えるフィジカルインフラ関連を引き続き有望視しています。これらの分野では、中長期的な設備投資需要の拡大が期待されており、テクノロジー関連以外にも投資機会が広がるとの見方を反映しています。

一方、情報技術セクターは当月最も組入比率を引き下げました。これは利益確定を含むポジション調整と市場要因の双方によるものです。半導体、メモリー、ソフトウェア、サイバーセキュリティなどAI関連分野に対する中長期的な見方は引き続き前向きですが、ポジションの集中や個別銘柄の値動きの大きさを踏まえ、一部保有比率を引き下げました。

一般消費財セクターについても組入比率を引き下げました。同セクターでは銘柄選択を重視しており、住宅関連、旅行、バリュー志向の消費関連など、ファンダメンタルズ（基礎的条件）の改善が期待できる分野へ投資をシフトしました。一方で、消費動向や業績の不透明感が残る分野には慎重な姿勢を維持しています。

債券の組入比率は前月比で引き上げました。ポートフォリオ全体のデュレーション（投資資金の平均回収期間：金利の変動による債券価格の感応度）は1.6年とし、参考指標に対してアンダーウェイトとしています。

金利水準の投資妙味は高まりつつあるものの、金融政策は引き続き抑制的とみており、デュレーションを積極的に長期化する段階には至っていないと判断しています。このため、金利リスクよりもインカム収益を重視した運用を継続しました。

債券内では、国債（先進国・新興国）をアンダーウェイトとする一方、社債、特にハイイールド債や証券化商品をオーバーウェイトしています。クレジットスプレッド（国債に対する上乗せ金利）は低水準にあるものの、キャリー収益や銘柄選択によって十分な投資妙味が得られると判断しています。

証券化商品については、インカム獲得と分散投資の両面で引き続き魅力的と考えています。特に高格付けCMBS（商業用不動産担保証券）やシニアクラスの非エージェンシー住宅ローン関連証券を選好する一方、発行が増加している分野や銘柄間格差が拡大している分野については慎重な姿勢を維持しています。

地域別では、欧州および英国の短期金利ゾーンを選好しています。市場は追加利上げを織り込んでいますが、運用チームでは成長率やインフレ見通しを踏まえると織り込みすぎと判断しています。一方、米国については実質金利の魅力は高まっているものの、国債需給の悪化懸念などを踏まえ、金利リスクは抑制しています。

商品関連の組入比率は前月比で引き上げました。金は長期的な分散投資手段および価値保存手段として有効であると考えており、財政赤字拡大や通貨価値の下落といった構造的要因が支援材料となるとみています。一方、足元では実質金利の上昇や米ドル高が逆風となっており、短期的なヘッジ手段としての有効性は限定的であるとみていることから、相対的な魅力度は低下していると判断しています。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

日興ブラックロック・ハイ・クオリティ・アロケーション・ファンド (為替ヘッジなし) / (限定為替ヘッジ)

追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2026年06月30日

※ このページは組入投資信託をシェアクラスとして含む「ブラックロック・グローバル・ファンズーグローバル・アロケーション・ファンド」について、ブラックロック・ジャパン株式会社から提供を受けたデータおよび情報を基に記載しています。

ファンドマネージャーコメント

現金の組入比率は前月比で引き上げました。現金、インカム資産、デリバティブ（金融派生商品）、金などを組み合わせることで、ポートフォリオ全体のリスク管理を行っています。

当月末の資産構成ですが、株式は資産全体の62%、債券は24%、商品関連は3%、現金は11%としました。株式の組入比率を引き下げる一方で、債券、商品関連および現金の組入比率を引き上げました。

<今後の運用方針>

当月は、原油価格の下落や金利ボラティリティ（変動性）の低下に加え、米国経済の底堅さが市場を下支えしました。一方、株式市場では指数全体の方向感よりも、セクターやスタイル、個別銘柄間の資金シフトが目立つ展開となりました。

こうした環境を踏まえ、当ファンドでは株式組入比率を前月から引き下げましたが、参考指標に対するオーバーウェイトを維持しています。米国株を中心に、AI関連や設備投資サイクルの恩恵を受ける分野を引き続き選好する一方、情報技術セクターではリスク管理を強化し、一般消費財セクターでは銘柄選別を重視した運用を継続しています。

債券ではインカム収益を重視し、デュレーションは参考指標よりも短めを維持する一方、ハイイールド債や証券化商品などクレジット資産を引き続き選好しています。

総じて当ファンドは、成長性の高さに確信度の高い株式と、安定的なインカムをもたらす債券を組み合わせ、安定性と分散性に優れたポートフォリオ構築を目指します。また、リスク許容度を踏まえ、デュレーション調整を含む多様な手段でポートフォリオ・ヘッジを行い、デリバティブ保有に加えて、一定水準の現金、商品関連資産、および為替ポジションを維持しています。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

日興ブラックロック・ハイ・クオリティ・アロケーション・ファンド (為替ヘッジなし) / (限定為替ヘッジ)

追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2026年06月30日

ファンドの特色

- 主として世界各国の株式や債券など、さまざまな資産への分散投資により信託財産の中長期的な成長を目指します。
 - ファンド・オブ・ファンズ方式で運用を行います。
 - 世界中のさまざまな資産（株式・債券など）、国・地域、セクターなどから、投資魅力が高いと判断する資産や個別証券を発掘します。
 - 投資環境に応じて株式や債券などの各資産への配分比率や個別証券への投資比率を機動的に変更します。
 - 実質的な運用は、マルチアセット運用に精通したブラックロック・インベストメント・マネジメント・エル・エル・シーが行います。
 - 当ファンドの運用の指図に関する権限の一部を、ブラックロック・ジャパン株式会社に委託します。
 - 対円での為替ヘッジの有無によって、（為替ヘッジなし） / （限定為替ヘッジ）の2つのファンドがあり、ファンド間のスイッチングが可能です。
 - （為替ヘッジなし）
米ドル建ての組入れ外国投資信託証券に対し、原則として対円での為替ヘッジを行いません。
 - （限定為替ヘッジ）
米ドル建ての組入れ外国投資信託証券に対し、原則として米ドル売り円買いの為替取引を行い、為替変動リスクの低減を図ります。外国投資信託証券を通じて保有する米ドル建て以外の資産については、米ドルに対する当該通貨の為替変動の影響を受けます。
※販売会社によっては、スイッチングを行わない場合があります。また、いずれか一方のみの取扱いとなる場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
 - 年1回（原則として毎年6月26日。休業日の場合は翌営業日）決算を行い、決算毎に分配方針に基づき分配金額を決定します。
 - 分配金額は分配方針に基づき委託会社が決定しますが、市況動向等によっては、分配を行わない場合もあるため、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。
- ※ 資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

投資リスク

基準価額の変動要因

- 当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資者の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
- 運用の結果として信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。
- 投資信託は預貯金と異なります。また、一定の投資成果を保証するものではありません。
- 当ファンドの主要なリスクは以下の通りです。

■ 株式市場リスク

【株価の下落は、基準価額の下落要因です】

内外の経済動向や株式市場での需給動向等の影響により株式相場が下落した場合、ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、個々の株式の価格はその発行企業の事業活動や財務状況等によって変動し、株価が下落した場合はファンドの基準価額が下落する要因となります。

■ 債券市場リスク

【債券の価格の下落は、基準価額の下落要因です】

一般に債券は内外の経済情勢等の影響による金利の変動を受けて価格が変動します。通常、金利が上昇すると債券価格は下落します。また、格付けが引き下げられる場合も債券価格が下落するおそれがあります。債券価格の下落はファンドの基準価額が下落する要因となります。なお、価格の変動幅は、債券の種類、格付け、残存期間、利払いのしくみの違い等により、債券ごとに異なります。



日興ブラックロック・ハイ・クオリティ・アロケーション・ファンド (為替ヘッジなし) / (限定為替ヘッジ)

追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2026年06月30日

投資リスク

■ 信用リスク

【債務不履行の発生等は、基準価額の下落要因です】

ファンドが投資している有価証券や金融商品において債務不履行が発生あるいは懸念される場合、またはその発行体が経営不安や倒産等に陥った場合には、当該有価証券や金融商品の価格が下がったり、投資資金を回収できなくなったりすることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。

■ 為替変動リスク

(為替ヘッジなし)

【円高は基準価額の下落要因です】

外貨建資産への投資は為替変動の影響を受けます。ファンドが保有する外貨建資産の価格が現地通貨ベースで上昇する場合であっても、当該現地通貨が対円で下落する（円高となる）場合、円ベースでの評価額が下落し、基準価額が下落することがあります。

(限定為替ヘッジ)

【為替ヘッジにより、円高が基準価額に与える影響は限定的です】

ファンドの投資対象である外国投資信託の組入資産については、原則として、当該外国投資信託の評価額とほぼ同額程度の米ドル売り、円買いの為替ヘッジを行います。

外貨建資産への投資は為替変動の影響を受けますが、原則として対円での為替ヘッジを行うため、その影響は限定的と考えられます。ただし、完全に為替変動リスクを回避することはできません。投資する外国投資信託を通じて保有する米ドル建て以外の通貨建資産については、米ドルに対する当該資産通貨の為替変動の影響を受けます。なお、円金利がヘッジ対象通貨の金利よりも低い場合、その金利差相当分のヘッジコストがかかることにご留意ください。また、需給要因等によっては金利差相当分以上にヘッジコストがかかる場合があります。

■ カントリーリスク

【投資国の政治・経済等の不安定化は、基準価額の下落要因です】

海外に投資を行う場合には、投資先の国の政治・経済・社会状況の不安定化、取引規制や税制の変更等によって投資した資金の回収が困難になることや、その影響により投資する有価証券等の価格が大きく変動することがあり、基準価額が下落する要因となります。

特に投資先が新興国の場合、その証券市場は先進国の証券市場に比べ、より運用上の制約が大きいことが想定されます。また、先進国に比べ、一般に市場規模が小さいため、有価証券の需給変動の影響を受けやすく、価格形成が偏ったり、変動性が大きくなる傾向が考えられます。

■ 流動性リスク

【市場規模の縮小・取引量の低下により、不利な条件での取引を余儀なくされることは、基準価額の下落要因です】

有価証券等を大量に売買しなければならない場合、あるいは市場を取り巻く外部環境に急激な変化があり、市場規模の縮小や市場の混乱が生じた場合等に、十分な数量の売買ができなかったり、通常よりも不利な価格での取引を余儀なくされることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。

その他の留意点

【分配金に関する留意事項】

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
 - 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
 - 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。
- ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。

日興ブラックロック・ハイ・クオリティ・アロケーション・ファンド (為替ヘッジなし) / (限定為替ヘッジ)

追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2026年06月30日

投資リスク

その他の留意点

これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性、換金申込みの受け付けが中止となる可能性、既に受け付けた換金申込みが取り消しとなる可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性等があります。



日興ブラックロック・ハイ・クオリティ・アロケーション・ファンド (為替ヘッジなし) / (限定為替ヘッジ)

追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2026年06月30日

お申込みメモ

購入単位

お申込みの販売会社にお問い合わせください。

購入価額

購入申込受付日の翌営業日の基準価額

購入代金

販売会社の定める期日までにお支払いください。

換金単位

お申込みの販売会社にお問い合わせください。

換金価額

換金申込受付日の翌営業日の基準価額

換金代金

原則として、換金申込受付日から起算して7営業日目からお支払いします。

信託期間

2029年6月26日まで（2014年6月27日設定）

決算日

毎年6月26日（休業日の場合は翌営業日）

収益分配

決算日に、分配方針に基づき分配金額を決定します。委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。

分配金受取りコース：原則として、分配金は税金を差し引いた後、決算日から起算して5営業日目までにお支払いいたします。

分配金自動再投資コース：原則として、分配金は税金を差し引いた後、無手数料で再投資いたします。

※ 販売会社によってはいずれか一方のみの取扱いとなる場合があります。

課税関係

- 課税上は株式投資信託として取り扱われます。
- 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に限りNISA（少額投資非課税制度）の適用対象となります。
- 当ファンドは、NISAの対象ではありません。
- 配当控除および益金不算入制度の適用はありません。

お申込不可日

以下のいずれかに当たる場合には、購入・換金のお申込みを受け付けません。

- ルクセンブルグの銀行の休業日
- 12月24日

スイッチング

販売会社によっては、（為替ヘッジなし）および（限定為替ヘッジ）の間でスイッチングを取り扱う場合があります。また、販売会社によってはいずれか一方のみの取扱いとなる場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。



日興ブラックロック・ハイ・クオリティ・アロケーション・ファンド (為替ヘッジなし) / (限定為替ヘッジ)

追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2026年06月30日

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

- 購入時手数料
購入価額に3.30% (税抜き3.00%) を上限として、販売会社毎に定める手数料率を乗じた額です。
- スイッチング手数料
ありません。
- 信託財産留保額
ありません。

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

- 運用管理費用（信託報酬）
ファンドの純資産総額に年2.068% (税抜き1.88%)の率を乗じた額です。
- その他の費用・手数料
以下のその他の費用・手数料について信託財産からご負担いただきます。
 - 監査法人等に支払われるファンドの監査費用
 - 有価証券の売買時に発生する売買委託手数料
 - 資産を外国で保管する場合の費用 等
 ※ 上記の費用等については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※ 上記の手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

税金

分配時

所得税及び地方税 配当所得として課税 普通分配金に対して20.315%

換金（解約）及び償還時

所得税及び地方税 譲渡所得として課税 換金（解約）時及び償還時の差益（譲渡益）に対して20.315%

- ※ 個人投資者の源泉徴収時の税率であり、課税方法等により異なる場合があります。法人の場合は上記とは異なります。
- ※ 外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。
- ※ 税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

委託会社・その他の関係法人等

委託会社	ファンドの運用の指図等を行います。 三井住友DSアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第399号 加入協会：一般社団法人資産運用業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会 ホームページ： https://www.smd-am.co.jp コールセンター： 0120-88-2976 【受付時間】 午前9時～午後5時（土、日、祝・休日を除く）
受託会社	ファンドの財産の保管および管理等を行います。 三菱UFJ信託銀行株式会社
販売会社	ファンドの募集の取扱い及び解約お申込の受付等を行います。
投資顧問会社	ファンドの運用指図に関する権限の一部の委託を受け、投資信託財産の運用を行います。 ブラックロック・ジャパン株式会社

日興ブラックロック・ハイ・クオリティ・アロケーション・ファンド (為替ヘッジなし) / (限定為替ヘッジ)

追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2026年06月30日

販売会社

販売会社名		登録番号	日本証券業協会	一般社団法人 金融商品取引業協会 第二種	一般社団法人 資産運用業協会	一般社団法人 金融先物取引業協会	一般社団法人 日本S T O 協会	備考
S M B C日興証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第2251号	○	○	○	○	○	
株式会社 S B I 証券	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第44号	○	○	○	○	○	
松井証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第164号	○			○		
三菱 U F J e スマート証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第61号	○	○	○	○	○	※1
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第195号	○	○	○	○	○	
株式会社 S B I 新生銀行（S B I 証券仲介）	登録金融機関	関東財務局長（登金）第10号	○			○		※2 ※3
株式会社三井住友銀行	登録金融機関	関東財務局長（登金）第54号	○	○		○		

備考欄について

※1：「日興ブラックロック・ハイ・クオリティ・アロケーション・ファンド（為替ヘッジなし）」のみのお取り扱いとなります。※2：ネット専用※3：委託金融商品取引業者株式会社 S B I 証券

当資料のご利用にあたっての注意事項

- 当資料は、三井住友DSアセットマネジメントが作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、将来に関し述べられた運用方針・市場見通しも変更されることがあります。当資料は三井住友DSアセットマネジメントが信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 投資信託は、値動きのある証券（外国証券には為替変動リスクもあります。）に投資しますので、リスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動します。したがって元本や利回りが保証されているものではありません。
- 投資信託は、預貯金や保険契約と異なり、預金保険・貯金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また登録金融機関でご購入の場合、投資者保護基金の支払対象とはなりません。
- 当ファンドの取得のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡する最新の投資信託説明書（交付目論見書）および契約締結前交付書面等の内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。投資信託説明書（交付目論見書）、契約締結前交付書面等は販売会社にご請求ください。また、当資料に投資信託説明書（交付目論見書）と異なる内容が存在した場合は、最新の投資信託説明書（交付目論見書）が優先します。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.